令和２年１０月９日号
校訓　立志・誠実・不屈
天城町立天城中学校
学校便り
飛翔天中
ＴＥＬ８５－２２８１
～明日も行きたい学校　会いたい友達や先生　受けたい授業～
ＮＯ．１７

塞翁が馬

校長　副田　明彦

１０月に入り，生徒会もいよいよ後期へ移り，新しい役員を選ぶ頃となっています。今年もあと３か月を切り，年明けから揺れたこの１年もゴールが見えてきました。学校の教育活動は「年度」制なので，ちょうど折り返しとなります。

前号から今号の間は，新型コロナウイルスの感染者が町内に発生したために，警戒レベルが４となり,厳戒態勢の取組をすることになりました。

行事等が延期などの対応をせざるを得なくなり，対応に追われる大変な２週間でした。そこで塞翁が馬という話を紹介します。

「塞翁が馬」は中国の前漢の時代に書かれた『淮南子』という書物の中にある話が元となってできた故事成語です。

直訳すると,塞は，砦(とりで)。翁は，おじいさん。ですから，砦の近くに住むおじいさんの馬という意味です。

新型コロナ感染防止対応

物語はこうです。(秦の時代は紀元前２００年ころ)

時は，秦の時代,場所は中国南部,長江の中流域にある淮南の国境の砦の近くに，運命判断など占いの術に長けた老人の一家がありました。ある日飼っていた馬が　なぜか突然国境の外，胡人（北方の異民族）の住むあたりに逃げていってしまい　ました。人々が見舞いにやってくるとこの老人は
「今度のことは福を呼び込んでくれるかもしれんよ」と言います。

それから何か月かして，この逃げた馬がなんと胡人の飼っている立派な馬を何頭か引き連れて戻ってきました。人々がまたやってきて「良かった良かった」と祝福しにいくと老人は
「これは災いをもたらすかもしれんよ」と言います。

この老人の家では良馬をたくさん飼っていたのですが，ある日老人の息子が馬から落ち足の骨を折ってしまいました。人々が見舞いにやってくるとこの老人は
「今度のことは良いことかもしれんよ」と言います。
それから一年が過ぎ，胡人が大挙して国境を越えて侵入してきたので，体の頑健な男子はみな兵隊にとられてしまいました。彼らの多くはこの国境のあたりで戦死しましたが，老人の息子は足を悪くしていたため徴兵を免れ，親子ともども命拾いしたということです。

「塞翁が馬」という故事成語はしばしば「人間万事塞翁が馬」，という使われ方をします。この時の「人間」は「にんげん」ではなく，「じんかん」と読みます。

中国語の“人间”には日本語のような「ヒト」という意味はなく，「人間の住むこの世・世の中・世間」という意味です。この成語の典拠である『淮南子』人間訓も「人間」は「世の中」という意味で「じんかんくん」と読みます。「人間」という漢字はそもそも「人のいる空間」という意味を表していますから，この言葉が日本に伝わった時なぜ「ヒト」という意味になったのか，実はよくわかっていません。ただこの成語「塞翁が馬」が日本に伝わった時には，すでに「じんかん」と読ませ，「にんげん」とは読んでいません。

職員はもとより，子供たちも楽しみにしていたものがなくなり，急な変更についていくということやマスクの着用・大声を発せないなどの取組もあり，大変ストレスフルな日々をここ２週間過ごしています。どうにかここまで来ています。これを「塞翁が馬」ととらえて，次は福が来ることを期待して，これから先を見据えて頑張っていきたいと思います。

各御家庭も大変だったことと思います。引き続き，感染予防に努めながら,いつもの日常を取り戻していきましょう。お互い様だということをよくわかり，相手の立場に理解を示す「思いやり」をぜひ大切にしてください。

校内研究授業

１０月８日（木）に予定していた大島地区指定「指導方法改善」公開研究会は，新型コロナウイルス感染拡大防止のため，残念ながら中止になりました。

当日は，校内研修として研究授業を行い，あとの職員研修でお互いに研究を深めました。これからの実践にいかしていきたいと思います。

来週・再来週の主な日程

15(木)，16(金)	文化祭取組
１９日（月）	文化祭取組
２０日（火）	移動図書館　ＯＳＯＳ運動
２１日（水）	文化祭取組
２２日（木）	文化祭リハーサル
２３日（金）	第６１回文化祭

本校生徒の９月の平均家庭学習時間 75.6 分